

6月25日

1974年/号外

新左翼社 大阪市北区池田町21安田ビル2階

電話(358)4376 東京支局新宿区西新宿7-19-8

自立社内 電話(361)7147 振替(大阪)88555

昭和43年12月12日第三種郵便物認可

定価1ヶ月200円 半年1000円 1年2000円

全国区候
参議院補戸村

世直しのむしろ旗を國じゅうに



九年間、千葉県成田市で国際空港反対の闘いをつづけてきた戸村一作氏は、本紙のインタビューに答えて、今の日本の政治について次のように語っています。

回と修正され、今日に至っています。

大鉄塔、それは、全国の、仲間たちの文字どおりの共有財産である、皆なのです。

すべての反公害の闘いは、一岩となり、
列島改造・自然破壊の策謀を粉碎せよ

三里塚の青い空には、一機の飛行機も飛ばさせていない。闘いは9年めの明日へ。

三里塚の闘いは、今日も、続けられています。水俣の闘いが続けられ、四日市の闘いが続けられ、むつ小川原の闘いが続けられ、名もない青年たちが、袋だきになりました。水俣の闘いが続けられ、四日市の闘いが続けられ、むつ小川原の闘いが続けられ、三里塚の闘いは、それらの闘いに支えられ、闘うものを励ました、九年めをむかえました。

自らの手で、暮しを奪いかえす闘い。
人間を台無しにする自民党を打倒せよ。

三里塚の空には、今日も、「富士山より高く見える」と子供たちが作文に書いた)、あの大鉄塔がそびえ、飛行機を阻んでいます。滑走路にはベンベン草が生え、地割れをおこし、一番機が発着するはずの予定日は、何十

三里塚二十日朝不当逮捕

警察がデツチ上げ捜索

【東京】岩山の地に高くそびえる大鉄塔に対する破壊の策動が日に日に強まっています。

千葉県警は六月二十日早朝、武装警官三百名を動員し、六カ所を不正に搜索するとともに、反対同盟青年行動隊員・柳川秀夫さん他一名を不当に

三里塚の空には、今日も、「富士山より高く見える」と子供たちが作文に書いた)、あの大鉄塔がそびえ、飛行機を阻んでいます。滑走路にはベンベン草が生え、地割れをおこし、一番機が発着するはずの予定日は、何十

三里塚の農民を、もともと何か特別の人間であつたかのようにいう人がいます。でなければ、あんなにも頑固に、ひるまずに機動隊とわたりあえる訳がない、と。いいえ、三里塚の農民は、いくたびか地面に叩きふせられ、住む家を打ち壊されて、はじめて権力の本質を、その狡猾さを思い知られたのです。骨身にしみるほどに。

を撤去させようとする、政府自民党と空港公団の大鉄塔破壊策動の第一弾

柳川君を不正にも逮捕

した理由は、強行採決し

た農業委員長への抗議行

動に対するものと、鉄塔

死守にそなえて反対同盟

が爆発物を用意している、

というデツチ上げの理由

同盟は九年間のたたかい

で証明したように、この

割しようとする権力の意

思

搜索には強く抗議します。

事件と何の関係もない団

結小屋を捜索し、トラッ

ク一台分も私たちの所有

物を押収してしまった。

この農地転用申請は明

らかに、いま成田空港の

開港をはばんでいる六十

三里塚芝山連合空港反

員も即時奪還します。」

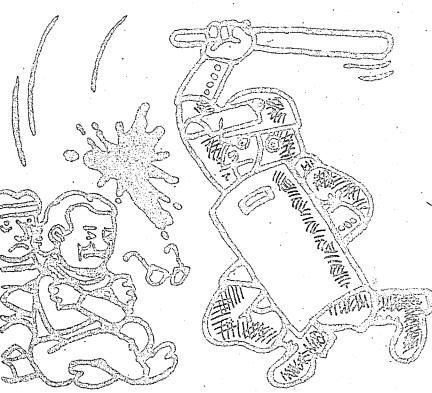
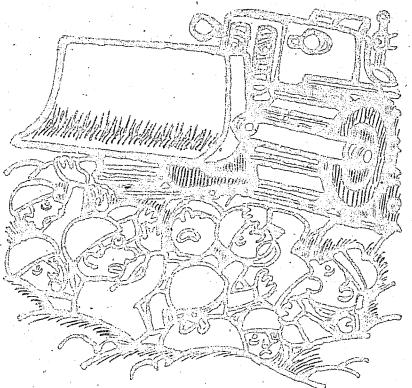
人びとの闘いの意志に背く既革新党怒りの炎をもて、彼らを乗りこえよう

三里塚の今日は、日本中の農村の、そしてまた都市の、明日につながるでしょう。人の生活を圧殺する権力と、いかに闘うべきか、いかなる取り引きをしてはならないか。だれを信頼し、だれが紳士づらをして裏切るか、そして、権力の甘言に乗った者が、どんな無残な生き方を強いられるか。三里塚の闘いのなかにその見本があります。

①
一九六六年六月二十二日成田に飛行場建設決定。農民は戸村一作を委員長にたたかいをはじめる。



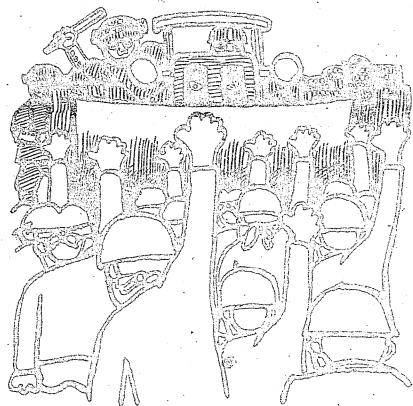
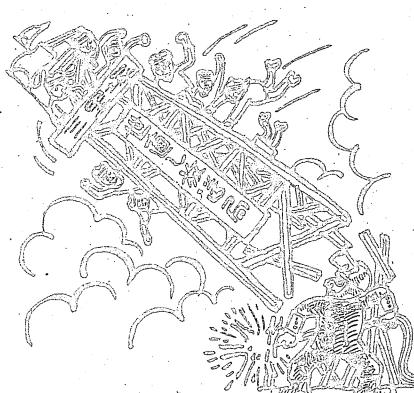
⑤
七一年二月～三月。第一次代執行。機械力で農民をぶみつぶす政府、公団。



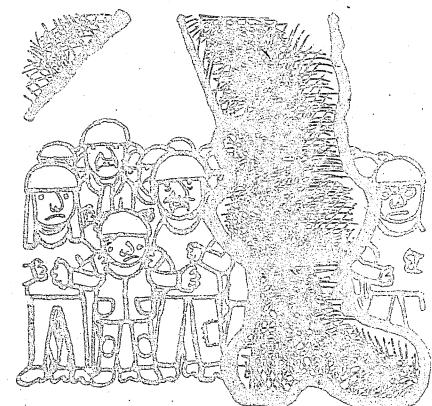
②
七八年二月集会に機動隊が乱入。
戸村一作も重傷を負った。

絵で見る三里塚九年の闘い

⑥
七一年九月。第二次代執行。暴力のむき出しの暴力によつて多数の人人が重傷を負う。



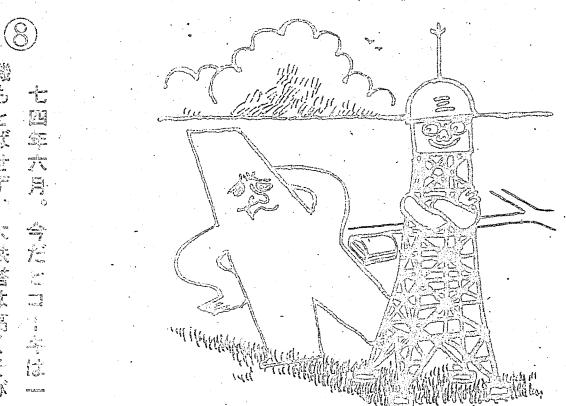
③
六九年十一月、整地作業のためブルートンザー投入。十三名が不当に逮捕される。



④
七四年二月～十月。土地収用法による強制測量に、少年から老人までたたかいに参加。



⑦
七一年九月。大木よねは家」と権力に破壊される。これがもとで七三年十二月死亡。



戸村さんに願いを託す
東京地方区立候補
野坂昭如氏談

東京地方区に立候補している、すなへての矛盾、ひずみ、そして権力の陰謀、魂胆が纂約されています。

私は私なりに、一つのとらえかたとして、この日本でもつとも肥沃な土地、土の恵みにあふれ、やさしい肌ざわりの場所に、コンクリートをかぶせ、まがまがしき臭いをまきちらせて、私たちの風景を奪い去ろうとする企みに対し、抵抗します。

私は、農民と連帯するには、余りに浮草の如き存在です。ただ、都市に住む者の、だからこそ土にあこがれる気持を、自ら大事にしたい、それはかけがえのないものだと考え戸村一作さんに願いを託しています。及ばずながら、私も末席につらなり、力をつくすつもりです。戸村さんと私の志が実を結べば、必ず日本の政治は変ります。